



2020年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年2月4日

上場会社名 キックマン株式会社
 コード番号 2801 URL <https://www.kikkoman.com/jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 堀切 功章
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 コーポレートコミュニケーション部長 (氏名) 臼井 一起
 上場取引所 東
 TEL 03-5521-5811
 四半期報告書提出予定日 2020年2月13日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	355,496	3.5	32,612	5.7	33,607	7.6	23,407	4.8
2019年3月期第3四半期	343,390	5.3	30,859	3.6	31,225	5.5	22,340	9.3

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 21,195百万円 (7.7%) 2019年3月期第3四半期 22,972百万円 (18.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	121.93	
2019年3月期第3四半期	116.37	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	394,486	283,105	70.5
2019年3月期	362,119	270,451	73.3

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 277,974百万円 2019年3月期 265,428百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		20.00		21.00	41.00
2020年3月期		21.00			
2020年3月期(予想)				21.00	42.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	465,200	2.6	39,120	1.8	38,400	1.3	26,590	2.3	138.51

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期3Q	193,883,202 株	2019年3月期	193,883,202 株
------------	---------------	----------	---------------

期末自己株式数

2020年3月期3Q	1,908,286 株	2019年3月期	1,905,508 株
------------	-------------	----------	-------------

期中平均株式数(四半期累計)

2020年3月期3Q	191,976,348 株	2019年3月期3Q	191,979,406 株
------------	---------------	------------	---------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法)

第3四半期決算補足説明資料は、T Dnetで本日開示するとともに、当社ウェブサイトにも掲載しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期における世界経済は、米国の景気は回復が続いており、欧州の景気も弱い動きではあるものの回復しており、全体として堅調に推移しております。日本経済についても、緩やかな回復が続いております。

このような状況下における、当社グループの売上は、国内については、しょうゆ、酒類が前年同期を下回ったものの、食品、飲料が堅調に推移し、食料品製造・販売事業全体で前年同期を上回りました。海外については、食料品製造・販売及び食料品卸売事業ともに順調に推移し、前年同期の売上を上回りました。

その結果、当第3四半期の連結業績は次の通りとなりました。

<連結業績>

(単位:百万円, %)

区 分	前年同四半期		当第3四半期		対前年同四半期			為替差	為替差除	
	2018年4月1日～ 2018年12月31日		2019年4月1日～ 2019年12月31日		金 額	%	売上 比差		金 額	%
	金 額	売上比	金 額	売上比						
売 上 高	343,390	100.0	355,496	100.0	12,106	103.5	—	△5,572	17,679	105.1
営 業 利 益	30,859	9.0	32,612	9.2	1,752	105.7	0.2	△541	2,294	107.4
経 常 利 益	31,225	9.1	33,607	9.5	2,381	107.6	0.4	△486	2,867	109.2
親会社株主に帰属 する四半期純利益	22,340	6.5	23,407	6.6	1,067	104.8	0.1	△345	1,412	106.3
USD	110.82		109.10		△1.72					
EUR	129.38		121.46		△7.92					

<報告セグメント>

(単位:百万円, %)

区 分	前年同四半期		当第3四半期		対前年同四半期			為替差	為替差除		
	2018年4月1日～ 2018年12月31日		2019年4月1日～ 2019年12月31日		金 額	%	売上 比差		金 額	%	
	金 額	売上比	金 額	売上比							
国内 食料品製造 ・販売	売上高	136,193	100.0	139,360	100.0	3,166	102.3	—	—	3,166	102.3
	営業利益	9,865	7.2	10,585	7.6	720	107.3	0.4	—	720	107.3
国内 その他	売上高	16,236	100.0	16,056	100.0	△179	98.9	—	—	△179	98.9
	営業利益	1,322	8.1	1,373	8.6	50	103.8	0.5	—	50	103.8
海外 食料品製造 ・販売	売上高	69,598	100.0	71,477	100.0	1,879	102.7	—	△1,914	3,794	105.5
	営業利益	14,180	20.4	14,669	20.5	488	103.4	0.1	△366	854	106.0
海外 食料品卸売	売上高	142,716	100.0	150,662	100.0	7,945	105.6	—	△3,885	11,831	108.3
	営業利益	6,061	4.2	6,946	4.6	885	114.6	0.4	△129	1,015	116.8
調整額	売上高	△21,355	100.0	△22,060	100.0	△705	—	—	227	△933	—
	営業利益	△570	—	△963	—	△392	—	—	△45	△347	—
四半期連結 損益計算書 計上額	売上高	343,390	100.0	355,496	100.0	12,106	103.5	—	△5,572	17,679	105.1
	営業利益	30,859	9.0	32,612	9.2	1,752	105.7	0.2	△541	2,294	107.4
USD	110.82		109.10		△1.72						
EUR	129.38		121.46		△7.92						

各報告セグメントの状況は次の通りであります。

【国内】

国内における売上の概要は次の通りであります。

(国内 食料品製造・販売事業)

当事業は、しょうゆ部門、つゆ・たれ・デルモンテ調味料等の食品部門、豆乳飲料・デルモンテ飲料等の飲料部門、みりん・ワイン等の酒類部門からなり、国内において当該商品の製造・販売を手がけております。各部門の売上の概要は次の通りであります。

■しょうゆ部門

しょうゆは、家庭用分野では、「いつでも新鮮」シリーズが、テレビ宣伝を中心としたマーケティング施策を徹底することにより、「新鮮な生しょうゆのおいしさ」、「鮮度維持」、「使いやすさ」という付加価値が市場に浸透し、売上を伸ばしました。一方、「こいくちしょうゆ」などのペットボトル品は前年同期を下回りました。加工・業務用分野は、前年同期を下回りました。この結果、部門全体としては前年同期の売上を下回りました。

■食品部門

つゆ類は、家庭用分野では、ストレートタイプつゆの「具麴」シリーズが好調に推移したものの、その他のストレートタイプのつゆは振るわず、全体として前年同期を下回りました。たれ類は、主力商品である「わが家は焼肉屋さん」シリーズが好調に推移し、加工・業務用分野も売上を伸ばしたことから、前年同期を上回りました。「うちのごはん」は、新商品の「キャベツのガリバタ醤油炒め」が好調に推移し、「混ぜごはんの素」シリーズも伸ばしたことから、前年同期を上回りました。デルモンテ調味料は、高付加価値品の「リコピンリッチ」などが好調に推移し、前年同期を上回りました。この結果、部門全体としては前年同期の売上を上回りました。

■飲料部門

豆乳飲料は、健康志向の高まりを背景に特定保健用食品の商品や無調整豆乳が伸長し、飲用だけでなく料理素材として豆乳を使う消費者も増えており、順調に売上を伸ばしました。また、昨年発売の家庭用「豆乳おからパウダー」がテレビに取り上げられ売上に貢献したこともあり、前年同期の売上を上回りました。

デルモンテ飲料は、「リコピンリッチ」や無塩トマトジュースなどのトマトジュースが堅調に推移しましたが、野菜ジュース、ジュースギフトが振るわず、前年同期の売上を下回りました。この結果、部門全体として前年同期の売上を上回りました。

■酒類部門

本みりんは、家庭用分野では、「米麴こだわり仕込み本みりん」などの高付加価値商品が売上を伸ばしたものの、ペットボトル品が振るわず、加工用分野でも大型容器が減少したため前期を下回りました。

ワインは、業務用分野が伸び、家庭用分野も国産ぶどうを原料とした日本ワインが伸長したものの、その他が苦戦したため、前年同期の売上を下回りました。この結果、部門全体として、前年同期の売上を下回りました。

以上の結果、国内 食料品製造・販売事業の売上高は1,393億6千万円（前年同期比102.3%）、営業利益は105億8千5百万円（前年同期比107.3%）と増収増益となりました。

(国内 その他事業)

当事業は、臨床診断薬・衛生検査薬・加工用酵素、ヒアルロン酸等の化成品等の製造・販売、不動産賃貸及び運送事業、グループ会社内への間接業務の提供等を行っております。

化成品等は、ヒアルロン酸が好調に推移しましたが、臨床診断薬は振るわず、アルギン事業の撤退の影響もあり、前年同期を下回りました。この結果、部門全体としては前年同期の売上を下回りました。

この結果、国内 その他事業の売上高は160億5千6百万円（前年同期比98.9%）、営業利益は13億7千3百万円（前年同期比103.8%）と、減収増益となりました。

【海外】

海外における売上の概要は次の通りであります。

(海外 食料品製造・販売事業)

当事業は、しょうゆ部門、デルモンテ部門、海外における健康食品等のその他食料品部門からなり、海外において当該商品の製造・販売を手がけております。各部門の売上の概要は次の通りであります。

■しょうゆ部門

北米市場においては、家庭用分野では、主力商品であるしょうゆに加え、しょうゆをベースとした調味料などの拡充に引き続き力を入れ、当社のブランド力を生かした事業展開を行ってまいりました。また、加工・業務用分野では顧客のニーズに合わせたきめ細かな対応をし事業の拡大を図りました。この結果、前年同期の売上を上回りました。

欧州市場においては、主要市場であるドイツ・フランス・オランダ・イタリアなどで堅調に売上を伸ばし、前年同期の売上を上回りました。

アジア・オセアニア市場においては、中国市場で売上を伸ばしました。また、タイ・インドネシア等においても売上を伸ばし、全体として前年同期を上回りました。

この結果、部門全体では前年同期の売上を上回りました。

■デルモンテ部門

当部門は、アジア・オセアニア地域で、フルーツ缶詰・コーン製品、トマトケチャップ等を製造・販売しております。

部門全体では前年同期の売上を上回りました。

■その他食料品部門

当部門は、主に北米地域において、健康食品を製造・販売しております。

部門全体では前年同期の売上を上回りました。

以上の結果、海外 食料品製造・販売事業の売上高は7 1 4 億 7 千 7 百万円（前年同期比102.7%）、営業利益は1 4 6 億 6 千 9 百万円（前年同期比103.4%）と、増収増益となりました。

(海外 食料品卸売事業)

当事業は、国内外において、東洋食品等を仕入れ、販売しております。

北米では、アジア系マーケットにとどまらず、ローカルマーケットへのさらなる浸透を進め、売上を伸ばしました。また、欧州、アジア・オセアニアでは引き続き市場が拡大しており、各地域で売上は順調に推移いたしました。この結果、前年同期の売上を上回りました。

この結果、海外 食料品卸売事業の売上高は1, 5 0 6 億 6 千 2 百万円（前年同期比105.6%）、営業利益は6 9 億 4 千 6 百万円（前年同期比114.6%）と、増収増益となりました。

以上の結果、当第3四半期の連結業績は、売上高は3, 5 5 4 億 9 千 6 百万円（前年同期比103.5%）、営業利益は3 2 6 億 1 千 2 百万円（前年同期比105.7%）、経常利益は3 3 6 億 7 百万円（前年同期比107.6%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2 3 4 億 7 百万円（前年同期比104.8%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は、1,625億9千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ60億7千6百万円増加いたしました。これは主に、受取手形及び売掛金が増加したことによるものであります。固定資産は、2,318億9千2百万円となり、前連結会計年度末に比べ262億9千1百万円増加いたしました。これは主に、在外連結子会社においてIFRS第16号「リース」及びASU第2016-02号「リース」を適用しリース資産（純額）が増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、3,944億8千6百万円となり、前連結会計年度末に比べ323億6千7百万円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は、631億9千5百万円となり、前連結会計年度末に比べ69億5千5百万円増加いたしました。これは主に、短期借入金が増加したことによるものであります。固定負債は、481億8千6百万円となり、前連結会計年度末に比べ127億5千8百万円増加いたしました。これは主に、在外連結子会社においてIFRS第16号「リース」及びASU第2016-02号「リース」を適用しリース債務が増加したことによるものであります。

この結果、負債の部は、1,113億8千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ197億1千3百万円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の部は、2,831億5百万円となり、前連結会計年度末に比べ126億5千4百万円増加いたしました。これは主に、為替換算調整勘定が減少したものの、利益剰余金が増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は70.5%（前連結会計年度末は73.3%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績につきましては、最近の2020年3月期第2四半期決算短信（2019年11月1日発表）により開示を行った業績予想から変更はありません。なお、業績等に影響を与える事業等のリスクについては、最近の有価証券報告書（2019年6月25日提出）により開示を行った内容から重要な変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	30,162	27,099
受取手形及び売掛金	60,719	66,883
有価証券	—	20
商品及び製品	42,513	42,533
仕掛品	10,997	11,198
原材料及び貯蔵品	5,330	5,611
その他	7,512	10,048
貸倒引当金	△717	△801
流動資産合計	156,518	162,594
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	42,862	48,802
機械装置及び運搬具(純額)	40,879	41,418
土地	20,936	20,936
リース資産(純額)	254	16,527
建設仮勘定	14,080	14,386
その他(純額)	4,376	4,477
有形固定資産合計	123,390	146,549
無形固定資産		
のれん	4,969	4,440
その他	5,339	5,336
無形固定資産合計	10,308	9,776
投資その他の資産		
投資有価証券	59,207	62,724
長期貸付金	1,491	1,771
退職給付に係る資産	5,936	6,251
繰延税金資産	3,053	3,022
その他	3,940	3,798
貸倒引当金	△1,726	△2,000
投資その他の資産合計	71,902	75,566
固定資産合計	205,601	231,892
資産合計	362,119	394,486

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,383	23,295
短期借入金	3,487	8,798
リース債務	50	2,498
未払金	18,872	15,883
未払法人税等	3,230	4,601
賞与引当金	2,592	829
役員賞与引当金	125	93
その他	5,497	7,194
流動負債合計	56,240	63,195
固定負債		
長期借入金	13,602	13,602
リース債務	90	14,674
繰延税金負債	7,934	8,073
役員退職慰労引当金	711	729
環境対策引当金	31	31
退職給付に係る負債	5,511	5,317
その他	7,546	5,757
固定負債合計	35,427	48,186
負債合計	91,667	111,381
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,599	11,599
資本剰余金	13,695	13,695
利益剰余金	225,835	240,854
自己株式	△3,631	△3,639
株主資本合計	247,498	262,510
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	17,521	17,429
繰延ヘッジ損益	△4	6
為替換算調整勘定	1,081	△1,176
退職給付に係る調整累計額	△667	△794
その他の包括利益累計額合計	17,930	15,464
非支配株主持分	5,022	5,131
純資産合計	270,451	283,105
負債純資産合計	362,119	394,486

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	343,390	355,496
売上原価	208,920	216,478
売上総利益	134,469	139,018
販売費及び一般管理費	103,609	106,406
営業利益	30,859	32,612
営業外収益		
受取利息	191	199
受取配当金	1,052	914
持分法による投資利益	200	225
受取賃貸料	521	532
為替差益	37	874
デリバティブ評価益	3,007	765
その他	1,498	1,359
営業外収益合計	6,510	4,870
営業外費用		
支払利息	90	371
為替差損	2,348	127
デリバティブ評価損	1	20
その他	3,703	3,356
営業外費用合計	6,144	3,876
経常利益	31,225	33,607
特別利益		
有形固定資産売却益	393	15
投資有価証券売却益	—	148
特別利益合計	393	164
特別損失		
固定資産除却損	66	638
投資有価証券評価損	—	20
ゴルフ会員権評価損	7	16
環境対策引当金繰入額	259	—
特別損失合計	332	675
税金等調整前四半期純利益	31,286	33,095
法人税等	8,601	9,331
四半期純利益	22,685	23,764
非支配株主に帰属する四半期純利益	345	357
親会社株主に帰属する四半期純利益	22,340	23,407

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	22,685	23,764
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,491	△131
繰延ヘッジ損益	36	11
為替換算調整勘定	3,863	△2,373
退職給付に係る調整額	68	△116
持分法適用会社に対する持分相当額	△190	41
その他の包括利益合計	287	△2,569
四半期包括利益	22,972	21,195
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	22,782	20,941
非支配株主に係る四半期包括利益	189	254

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(ASU第2014-09号「顧客との契約から生じる収益」の適用)

米国会計基準を適用する在外連結子会社において、ASU第2014-09号「顧客との契約から生じる収益」を、第1四半期連結会計期間より適用しております。これにより、約束した財又はサービスが顧客に移転された時点で、当該財又はサービスと交換に権利を得ると見込む対価を反映した金額で、収益を認識しております。

本会計基準の適用にあたっては、その経過的な取扱いに従って、第1四半期連結会計期間の期首において、累積的影響額を利益剰余金に加減しております。

なお、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益、及び四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(IFRS第16号「リース」の適用及びASU第2016-02号「リース」の適用)

在外連結子会社において、IFRS第16号「リース」及びASU第2016-02号「リース」を第1四半期連結会計期間より適用しております。これにより、借手は原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上しております。

本会計基準の適用にあたっては、その経過的な取扱いに従って、第1四半期連結会計期間の期首において、累積的影響額を利益剰余金に加減しております。なお、利益剰余金の当期首残高に与える影響は軽微であります。

この結果、従来の会計基準を適用した場合と比較して、当第3四半期連結会計期間末の固定資産の「リース資産(純額)」が16,215百万円、流動負債の「リース債務」が2,435百万円、及び固定負債の「リース債務」が14,501百万円、それぞれ増加しております。

なお、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益、及び四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日 至2018年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内 食料品製 造・販売	国内 その他	海外 食料品製 造・販売	海外 食料品 卸売	計		
売上高							
外部顧客への売上高	134,867	5,742	60,389	142,390	343,390	—	343,390
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,326	10,494	9,208	326	21,355	△21,355	—
計	136,193	16,236	69,598	142,716	364,745	△21,355	343,390
セグメント利益	9,865	1,322	14,180	6,061	31,430	△570	30,859

(注) 1. セグメント利益の調整額△570百万円は、主に全社費用配賦差額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内 食料品製 造・販売	国内 その他	海外 食料品製 造・販売	海外 食料品 卸売	計		
売上高							
外部顧客への売上高	137,714	5,231	62,222	150,328	355,496	—	355,496
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,646	10,825	9,254	334	22,060	△22,060	—
計	139,360	16,056	71,477	150,662	377,557	△22,060	355,496
セグメント利益	10,585	1,373	14,669	6,946	33,575	△963	32,612

(注) 1. セグメント利益の調整額△963百万円は、主に全社費用配賦差額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。